

就農率向上に向けた農業大学の取り組み

農業大学校

1 入学者に関する近年の傾向

農業大学校は平成21年度に専修学校化されました。そのころから入学者数が増加し、特に、非農家の入学者数が大幅に増加しています。そのため、農業大学校の役割は、非農家出身者にも農業の魅力を伝え、農業を一生の仕事にしようと動機付けすることが重要だと考えています。

2 農業大学校の教育と取り組み

①幅広い農業技術の習得

農業大学校では課題解決型学習に取り組んでいます。1年目のプロジェクト学習で学生自らが栽培計画を立て、実際に栽培し、その成果を発表します。そこで得られた課題や問題点について、2年目の卒業研究でさらに追求するという流れになっています。

②実際に農業に触れる・魅力を感じる機会を作る

先進農業派遣実習、先進農業視察研修、就業体験を実施しています。県内の先進的な農業経営者のもとで優れた農業経営や農家生活を体験したり、関係機関との連携のもと、県内外の優れた技術や経営、流通加工の現場を見聞・体験したりします。この機会を通して、学生は就農への意識も高まり、農業の知識技術、農業の現状、先進農家の経営に対する考え方などを学ぶことが出来ます。これらは校内では学べない実践力の養成や農業の魅力を高める機会となっています。



写真1 先進農業視察研修の様子



写真2 米粉を用いたパン作り

③多様な販売形態にも対応できる加工の知識や技術の習得

実習として農産加工実習、講義として農産加工論と食品衛生概論があり、これら3つをセットにして、技術や知識を学びます。近年は農業生産法人でも、食品加工の部門で人材を求められることもあり、こうした講義が活かされることを期待しています。

④経営感覚の習得

学生の自主活動として農業経営実践クラブを実施しています。このクラブでは肥料代や種子代、農薬代などはすべて栽培する学生の負担になりますが、出来た農産物の売上げは、すべて学生のものとなるなど、自己責任が基本です。

販売を含め作業を頑張れば儲かるし、失敗すると赤字となり損をするため、学生の自主性を引き出すことが出来ます。このような体験をすることで、経営感覚が身につき、就農等への進路決定にもつながると考えています。

⑤ 農業経営の実践・多様なニーズの把握

販売活動を実践できる場として、月一回のペースで校内販売を実施しています。また、校外販売は以前は「ポケットファームどきどき」のみでしたが、現在では「茨城空港」、「イオンタウン水戸南店」、「渋谷ヒカリエ」など実施箇所を増やし、より多様な消費者のニーズを把握できるようになりました。



写真3 「渋谷ヒカリエ」におけるアンケート調査

3 就農者は増加したか？

就農者数は平成 21 年度から徐々に増加しており、特に平成 23 年度には大幅に増加しています。なかでも、非農家出身者の農業生産法人への就職（法人就農）が多く目立ちます。このことから、農業大学校の近年の取り組みが、就農率向上、特に非農家出身者の就農につながったと考えられます。

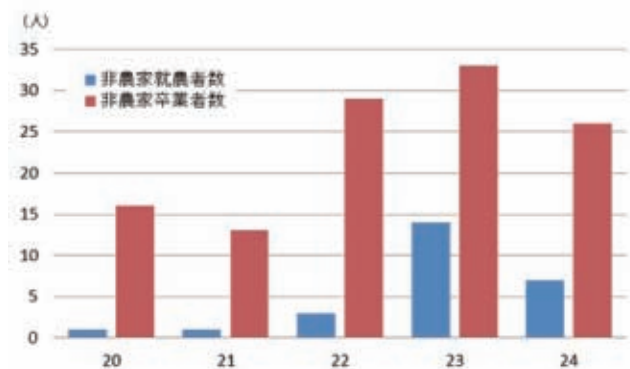


図1 非農家出身者の就農者数の推移

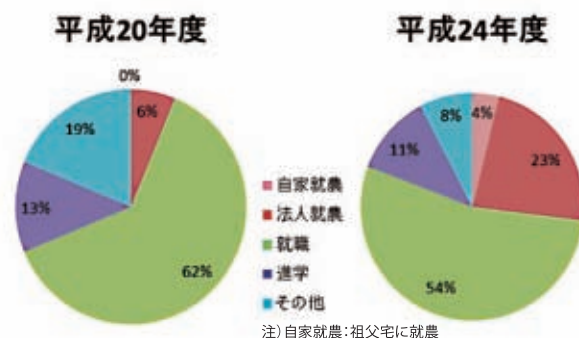


図2 非農家出身者の進路状況の変化

4 今後の取り組み

今後は、学生ニーズに合わせた進路指導が必要だと考えています。そのために、①法人就農者との交流を充実させる取り組み②農業経営実践クラブの活動強化③卒業生の追跡調査、支援を進めていきます。

今年も 30 名の卒業生が茨城県内で就農します。今後、農業生産法人へ就職（雇用就農）した非農家出身の卒業生が農業の担い手として定着することが大切です。農業大学校では、本校の卒業生が茨城農業を支える重要な人材となるよう各関係機関をはじめ先輩農家の皆さんと一緒に育てていきたいと考えています。